

通電確認

1 通電確認のまえに次のことを確認してください。

警告 接地工事がされていることを確認してください。

故障や漏電のときに感電する恐れがあります。

●通電の確認は、必ずタンク内を満水状態にしてから行ってください。たとえ短時間でも空焼きは故障の原因となりますので絶対に避けてください。

●タンク内が満水状態になっていることを次の順序で確認ください。

- ① 給湯栓・止水栓を開いてください。(温水器へ自動的に給水されます。)
- ② 給湯栓から水が出ましたら温水器(タンク内)が満水ですので給湯栓を閉めてください。
- ③ 止水栓は開のままにしておいてください。

●配管接続部および温水器本体・逃し弁・減圧弁からの水漏れはないか確認してください。

警告 漏電しゃ断器の動作確認をしてください。

漏電しゃ断器が故障のまま使用すると、漏電のときに感電する恐れがあります。

一漏電しゃ断器の動作確認方法一

① 深夜電源200Vを通電状態にしてください。

ご注意

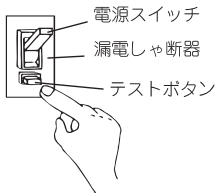
●深夜電力専用のタイムスイッチを通電状態にするときは、電力会社の了解をとってください。

② 温水器の点検窓カバーを開けてください。

③ テストボタンを押して、電源スイッチが「OFF」になることを確認してください。

④ 動作確認後、必ず電源スイッチを「ON」にしてください。

⑤ 点検窓カバーを確実に閉じてください。(閉じ方が不完全な場合雨水が侵入して感電や機器が故障する恐れがあります)



2 通電確認

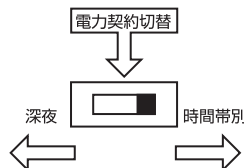
●リモコンの操作は、温水器本体に同梱の「取扱説明書」を参照ください。

時間帯別電灯・季節別時間帯別電灯契約でご使用の場合

一電力契約切替スイッチ(SW2) 設定変更一

適用機種
右記以前の機種

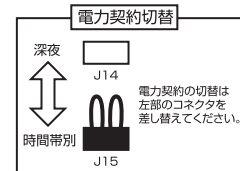
●電力契約切替スイッチ(SW2)を時間帯別側へ切り替えてください。製品出荷時は深夜電力になっています。



一電力契約切替コネクタ(J14)の差し替え一

適用機種
ES-※※※RM-12,ES-※※※RMK-5
ES-15ORM-8,ES-20ORM-8
ES-※※※CM-10

●電力契約切替コネクタ(J14)を時間帯別側(J15)へ差し替えてください。製品出荷時は深夜電力になっています。



- ① 温水器本体の漏電しゃ断器の電源スイッチを「ON」にして200Vを温水器に通電します。リモコン充電のため5分以上の通電が必要です。充電不足の場合、リモコンが正常に動作しない場合があります。
- ② 時計設定を行います。初めは「00:00」点滅状態になっています。「時」「分」ボタンで時刻を合わせて、最後に「時刻設定」ボタンを押してください。時刻が点灯状態になれば完了です。

注 時刻を設定しないと沸き上げを行いません。

※ 時刻を変更したい場合は、「時刻設定」ボタンを1秒以上押し、時刻が点滅状態になってから上記の要領で設定してください。

ご注意

●現在時刻は電力量計の時刻に合わせてください。時刻設定が間違っていれば電気代が高くなる恐れがあります。

③ 「沸増1日」ボタンを押します。リモコンに「沸き増し1日」が表示されます。

④ リモコンに「沸上げ中」が表示され、ヒーター通電が開始されます。電力量計(デジタル表示)が急速に変化することを確認します。

深夜電力契約でご使用の場合

① 温水器本体の漏電しゃ断器の電源スイッチを「ON」にして200Vを温水器に通電します。リモコン充電のため5分以上通電が必要です。充電不足の場合、リモコンが正常に作動しない場合があります。

② 一旦漏電しゃ断器の電源スイッチを「OFF」にし、10秒程待ってから再度「ON」にします。

③ リモコンに「沸上げ中」が表示され、ヒーター通電が開始されます。電力量計の回転で確認します。

④ タイムスイッチを現在の時刻にセットしてください。

バックライト点灯について

●バックライトは充電方式となっています。

●バックライトの充電には20分以上必要です。

●リモコン立ち上げ初期には、バックライトが暗い場合がありますが、充電量が少ないため、故障ではありません。充電が完了すれば正常に点灯します。

Sリモコン施工説明書 (ESR-1)

安全上のご注意



注意



必ず実行

- 取り付ける前に必ずお読みください。
- リモコンを浴室など湿度の多い場所、屋外などの雨の当たる場所、ガステーブルの上など高温になる場所に取り付けしないでください。火災や感電および機器が故障する恐れがあります。
- リモコンケーブルの接続は、必ず本体漏電しゃ断器の電源スイッチを「切」(OFF)にしてから行ってください。感電や故障の原因となります。
- リモコンを分解しないでください。故障の原因となります。

1 取り付ける前に

- リモコンを正しく取り付けていただくため、この「施工説明書」をよくお読みになり十分に理解してください。
- 工事は、付属部品および純正部品をご使用ください。
- この「施工説明書」に記載されている事項を守らないで発生した事故については、当社は責任を負いません。
- 時間帯別電灯・季節別時間帯別電灯契約のお客様はリモコンの時計設定を正しく行ってください。時計設定を間違った場合、電気代が割高になる恐れがあります。

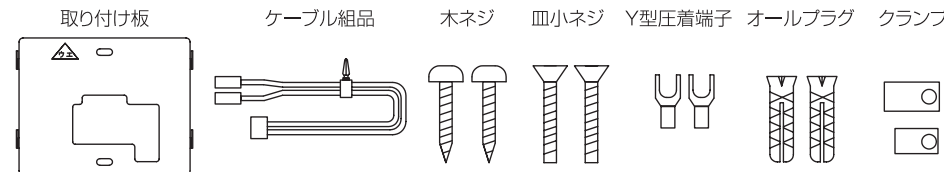
2 取り付け場所の選定

- リモコンを浴槽などの湿気の多い場所、屋外などの雨の当たる場所、ガステーブルの上など高温になる場所に取り付けしないでください。
- リモコンはスイッチ操作が容易に行え、表示がよく見える所(目の高さよりやや低い場所)に取り付けてください。

3 取り付け工事

- リモコンの取り付け工事は専門の技術が必要です。販売店または工事店が行ってください。
- リモコンのケーブルの中継は誤作動の原因となりますので行わないでください。
- リモコンケーブルの全長は20m以下としてください。
- リモコンケーブルは電源線と離して配線してください。ノイズによる誤作動の原因となります。

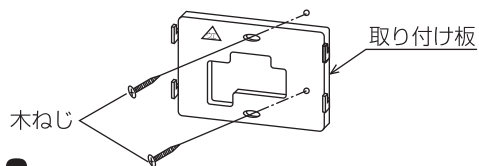
同梱部品



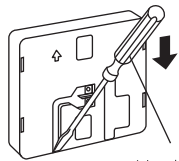
リモコンの取り付け

壁取り付けの場合

1 取り付け板を付属の木ねじ2本で平坦な壁に固定します。

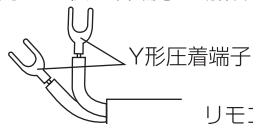


2 リモコン裏の下側にあるツメをとりまします。ツメはドライバーを溝に入れて下方向に倒すか、ラジオペンチの先端でつまんで取ってください。



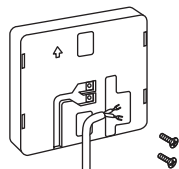
マイナスドライバー

3 リモコンケーブルの先端を約6mm皮むきし、付属のY形圧着端子を加締めます。

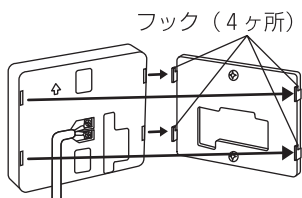


リモコンケーブル

4 リモコンにY形圧着端子(リモコンケーブル)をねじ止めします。



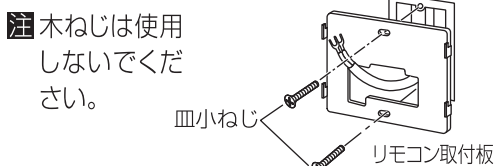
5 取り付け板にリモコン裏面の溝を差込み、下方向へスライドさせます。



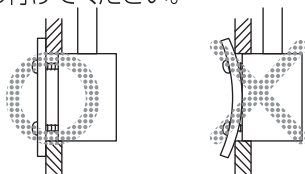
フック (4ヶ所)

スイッチボックス取り付けの場合

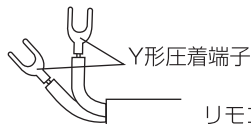
1 取り付け板をスイッチボックスに付属の皿小ねじで固定します。



2 スwitchボックスが壁から奥に入っている場合は、無理に締め付けると取り付け板が反るおそれがあります。取り付け板が反らないよう締め付けてください。



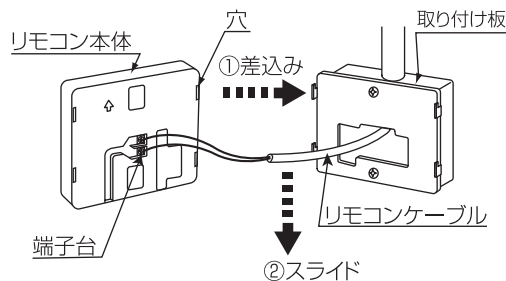
2 リモコンケーブルの先端を約6mm皮むきし、付属のY形圧着端子を加締めます。



リモコンケーブル

3 リモコンにY形圧着端子(リモコンケーブル)をねじ止めします。

4 取り付け板にリモコン裏面の溝を差込み、下方向へスライドさせます。



リモコン本体
端子台

穴

①差込み

取り付け板
リモコンケーブル

②スライド

本体とリモコンケーブルの接続

1 必ず配線用しゃ断器及び機器の漏電しゃ断器を「切」(OFF)にしてください。

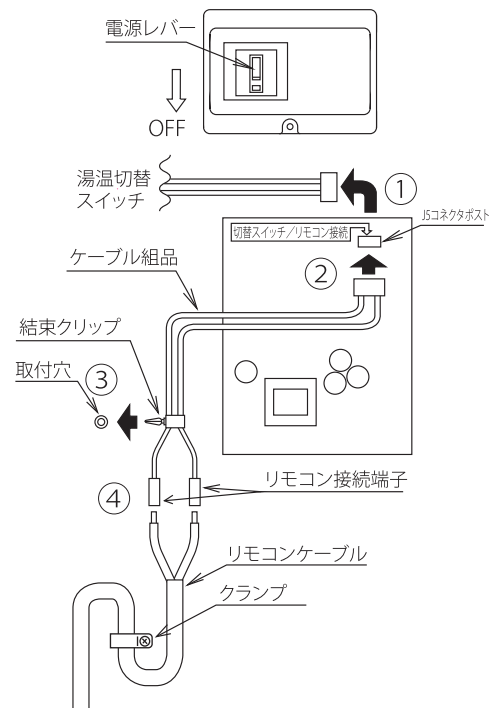
2 制御基板J5コネクタポストより、湯温切替スイッチからのJ5コネクタハウジングを取り外します。(右図①参照)

3 付属のリモコンケーブル接続セットからケーブル組品を取り出し、制御基板J5コネクタポストにケーブル組品のコネクタを差し込みます。(右図②参照)

4 ケーブル組品に取付けてある結束クリップを電装品の取付穴に差し込みます。(右図③参照)

5 リモコンケーブルをリモコン接続端子へ加締めてください。(右図④参照)

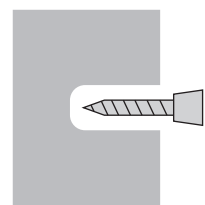
※リモコンケーブルに極性はありません。
※加締め部からリモコンケーブルが抜けなことを必ず確かめてください。
※リモコンケーブルをクランプで固定してください。



オールプラグの取り付けについて

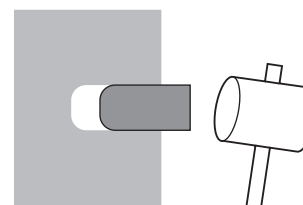
タイル、コンクリート、モルタルなどの壁のとき、オールプラグを壁に打ち込んでから木ねじで取り付けてください。

1. 穴あけ



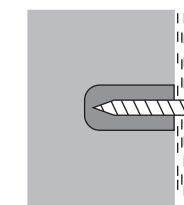
φ6mm
深さ30mm

2. 打ち込み



オールプラグを
打ち込む

3. 取り付け



ねじ止めをする